10課

12月6日

真のヨシュア

安息日午後 11月29日

暗唱聖句

これらのことは前例として彼らに起こったのです。それが書き伝えられているのは、時の終わりに直面しているわたしたちに警告するためなのです。（Ⅰコリント10：11、新共同訳）

これらの事が彼らに起ったのは、他に対する警告としてであって、それが書かれたのは、世の終りに臨んでいるわたしたちに対する訓戒のためである。（Ⅰコリント10：11、口語訳）

今週の聖句

Ⅰコリント10：1～13、マタイ2：15、ヨシュア記1：1～3、使徒言行録3：22～26、ヘブライ3：7～4：11、Ⅱコリント10：3～5

今週のテーマ

ヨシュア記には、主人公の人生が、その人自身よりもはるかに偉大な現実を指し示しているという感覚があります。この原則は、聖書全体を通して見られ、例えば、カナンの地は新しい地に対する私たちの永遠の希望の象徴です。そしてもちろん、地上の聖所での奉仕は、より大きな現実を指し示していました。「けれども、キリストは、既に実現している恵みの大祭司としておいでになったのですから、人間の手で造られたのではない、すなわち、この世のものではない、更に大きく、更に完全な幕屋を通（られたのです）」（ヘブ9：11）。

しかし、疑問が生じます。ヨシュア記は、どのようにして将来の成就を指し示しているのでしょうか。この書をそのように解釈することが正当であると、私たちはどうすれば確信できるのでしょうか。ヨシュア記を新約聖書の現実や終末の出来事に適用するうえで、それを規定する聖書の原則とは何でしょうか。

今週は、予型論に関する聖書解釈の原則を見ていきます。予型論の指標が聖書そのものの中にどのように含まれているのか、またヨシュアの生涯がメシアの働きをいかに予表し、教会や、人類史の終焉（しゅうえん）において成就する象徴をいかに指し示しているのかを学びます。

日曜日　11 月 30 日　聖書の予型論

問 1　予型について言及している次の聖句を研究し、聖書の予型論とはどんなものであるかを定義してください（ロマ 5：14、Ⅰコリ 10：1～13、ヘブ 8：5、9：23）。

これらの聖書の箇所では、「予型」（ギリシア語で「テュポス」）または「対型」（ギリシア語で「アンティテュポス」）という言葉が使われており、それは、新約聖書の記者が旧約聖書の聖句や出来事と、記者自身の時代や未来におけるその意味との関係をどのように定義したかを示しています。

予型論とは、福音書に記されているイエスやほかの現実を予表する、特定の人物、出来事、制度などについての特定の解釈です。予型は対型に対応しており、たとえ後者である対型のほうが予型の目的をより十全に果たすとしても、それはまるで型や空洞の型のように元の形〔対型〕を反映します。そのため、聖書の予型は、神の心の中に具体的、あるいは概念的に存在していた聖なる設計図に従って作られたものであり、未来のコピー（対型）を形作る役割を果たすのです。

新約聖書の記者は、自分の主張をするために、旧約聖書のある聖句に予型論的な意味を思いつきで当てはめたのではありません。そのことを理解することが重要です。旧約聖書の予型は、新約聖書において対型の成就を見る前に、必ず預言書の中でその正しさが検証されます。

問 2　旧約聖書でダビデがいかに描かれているか、次に新約聖書でいかに予表されているかを見てください。この例から、予型論がいかに機能するかについて、どんな教訓を得ることができるでしょうか。

a. ダビデ（詩編 22：2、15～19〔口語訳 22：1、14～18〕）：
b. 新しいダビデ（エレ 23：5、イザ 9：5、6〔口語訳 9：6、7〕、11：1～5）：
c. 対型的なダビデ（ヨハ 19：24）：

これらの聖句を見ると、旧約聖書そのものが聖書の予型を特定し、適用するための鍵を提供していることがわかります。つまり、旧約聖書を聖典とした新約聖書の記者たちは、聖霊によって霊感を受け、旧約聖書の予型を用いて「授かった真理」（Ⅱペト 1：12）、特にイエスとその働きに関する真理を明らかにしたのです。

月曜日　12 月 1 日　予型と対型

聖書の解釈者は、何が聖書の予型と見なされるのか、あるいは、その特定の予型が新約聖書の時代やそれ以降に、いかに成就するのかを自分勝手に決定することはできません。聖書そのものが、聖書の予型論の適用に関して、いくつかの指標や原則を提供しています。

同様に、新約聖書は、一つの予型の対型的な成就を三つの異なる段階において明らかにしています。(1) キリストの生涯（キリスト論的成就）、(2) 教会の経験（教会論的成就）、(3) 時の終わり（終末論的成就）です。

このような予型と対型は、聖書の至るところに見られ、聖書の理解の仕方や、神の言葉がイエス、救い、そして私たちが持つ究極の希望について教えている真理を読者に示すうえで、とても役立ちます。

問 3　旧約聖書の予型として、イスラエル、出エジプト、聖所に目を向けてください。三つの対型的（キリスト論的、教会論的、終末論的）な段階において、それぞれはいかに成就しているでしょうか。

1. イスラエル
- **a. キリスト論的段階（マタ 2：15）：**
- **b. 教会論的段階（ガラ 6：16）：**
- **c. 終末論的段階（黙 7：4〜8、14）：**

2. 出エジプト
- **a. キリスト論的段階（マタ 2：19〜21）：**
- **b. 教会論的段階（IIコリ 6：17）：**
- **c. 終末論的段階（黙 18：4）：**

3. 聖所
- **a. キリスト論的段階（ヨハ 1：14、2：21、マタ 26：61）：**
- **b. 教会論的段階（Iコリ 3：16、17、IIコリ 6：16）：**
- **c. 終末論的段階（黙 3：12、11：19、21：3、22）：**

「聖書の著者は、ただ神のみであられるので、聖書のさまざまな部分は互いに一致している。……聖書のあらゆる教義は、互いに一致しており、個々の聖句の解釈は、ある主題について聖書が教えていることの全体と調和するのである」（『セブンスデー・アドベンチスト神学ハンドブック』65ページ、英文）。

ある聖句の意味がわかりにくいと感じるとき、あなたはどうしますか。

問 4　聖書の予型論の観点から、モーセとヨシュアの生涯の間に見られる複数の類似点には、どんな意味があるでしょうか（出 3：1、2、ヨシュ1：1～3、民 13：1、2、ヨシュ2：1、出 3：5、ヨシュ5：15 参照）。

最初の週に学んだように、ヨシュアは第二世代の新しいモーセとして描かれており、出エジプトの最も重要なステップを繰り返しています。モーセと同様に、ヨシュアも主との個人的な出会いによって任務を与えられました。両者の指導の下で、イスラエルの名声は、諸国民の間に恐れを呼び起こしました。モーセはイスラエルを率いて葦（あし）の海を渡り、ヨシュアはイスラエルを率いてヨルダン川を奇跡的に渡りました。いずれの指導者も割礼の必要性と過越祭の重要性を気づかされます。マナはモーセの時代に降り始め、ヨシュアの時代に終わりました。2人とも履物を脱ぐように命じられ、2人の差し伸べられた手は、イスラエルの勝利を告げます。モーセは土地の分割と逃れの町の設立について指示を与え、ヨシュアはその指示を実行します。両者とも、民に別れの挨拶をし、働きの終わりに人々のために契約を再確認しました。

問 5　申命記 18：15～19、34：10～12、ヨハネ 1：21、使徒言行録 3：22～26、7：37 を読んでください。モーセが語った「わたしのような預言者」という預言は、誰によって成就したのでしょうか。ヨシュアは、このイメージにいかに当てはまるでしょうか。

ヨシュアの人生は、モーセによってなされた預言の部分的な成就でしたが、（申18：15、18）。この預言は、究極的な意味では成就しませんでした。究極的な意味において、この預言はメシアによってのみ達成（つまり成就）されうるものだったのです。メシアは父なる神を深く知っておられました（ヨハ1：14、18）。彼は真理であり、神を誠実に明らかにされました（ルカ10：22、ヨハ14：6、マタ22：16）。神は確かにご自分の言葉をメシアの口にお授けになりました（ヨハ14：24）。したがって、モーセの生涯もヨシュアの生涯も、来（きた）るべきメシア、イエスの予型なのです。

クリスチャンとしてのあなたのあらゆる体験の基礎は、なぜイエスと、イエスがあなたのためにしてくださったことでなければならないのでしょうか。

水曜日　12月3日　対型としての真のヨシュア

ヨシュアの物語は、予型論のプリズムを通して見なければなりません。ヨシュアが行った戦争は、歴史的出来事であり、イスラエルの歴史の重要な部分を構成しています。これらの戦争の目的は、イスラエルの人々を約束の地に定住させ、割り当てられた嗣業（しぎょう）の土地を平和のうちに享受し、神の律法の原則に基づいた新しい社会を確立することでした。

のちに、イザヤなどの旧約聖書の記者たちは、ヨシュア記に頻繁に登場する同じ用語を使って、メシアの働きが、「荒廃した嗣業の地を（神の民に）継がせる」（イザ49：8）ことも含まれることを説明しています。ヨシュアの仕事がイスラエルの人々に土地を割り当てることであったように、新しいヨシュアとして描かれるメシアも、新しいイスラエルに霊的な嗣業の地を割り当てるのです。

問6　ヘブライ3：7〜4：11を読んでください。新約聖書は、新しいモーセであるヨシュア自身がイエス・キリストの予型であることを、いかに裏づけていますか。

新約聖書の記者は、イエス・キリストの働きの多くの側面をヨシュアの働きになぞらえて説明しました。ヨシュアが荒れ野で40年間過ごしたあと、カナンの地に足を踏み入れたように、「対型的なヨシュア」であるイエスは、荒れ野で40日過ごしたあと、地上での働きを始め（マタ4：1〜11、ルカ4：1〜13）、この地上の荒れ野で40日過ごしたあと、天での働きを始められました（使徒1：3、9〜11、ヘブ1：2）。

ヨルダン川でのイエスのバプテスマ（イエスによる「ヨルダン川の渡り」〔マタ3：13〜17、マコ1：9〜11〕）のあと、福音書の記者は、メシアの詩から詩編2：7を、「苦しむ主の僕（しもべ）」に関する歌からイザヤ42：1を引用しています（マタ3：17、マコ1：11、ルカ3：22）。その結果、イエスはバプテスマを通して、――死に至るまで忠実で従順に生きることによって――、悪の勢力に対するヤハウェの戦いを行う神の戦士として描かれているのです。イエスの生涯と十字架上の死は、サタンを追い出し、私たちの霊的な敵を征服し、神の民に霊的な安息を与え、あがなわれた者たちに嗣業を与えました（エフェ4：8、ヘブ1：4、9：15）。

キリストが私たちのためにしてくださったことに「安らぐ」ことができるとは、どういう意味でしょうか。つまり、イエスが私たちのためにサタンを打ち負かされたという確信を、私たちはいかに持つことができるのでしょうか。

問 7　ヨシュアは、予型として、イエス・キリストの働きだけでなく、キリストの体である教会の生活における成就を指し示しています。ヨシュアの下でイスラエルが行った戦争は、どんな意味において教会の霊的格闘を予示しているでしょうか。また、それらはどんなところが異なるでしょうか（Ⅰテモ 1：18、Ⅱテモ 4：7、エフェ6：10〜12、Ⅱコリ 10：3〜5、使徒 20：32 を参照）。

新約聖書の記者は、ヨシュアの予型が教会論的に（教会で）成就することを認識しています。キリストの体である教会のメンバーは、悪の勢力に対する霊的戦いに巻き込まれていますが、それでもなお、神の恵みの「休み」（ヘブ4：9〜11）と霊的嗣業（しぎょう）の祝福を享受するのです。

問 8　Ⅰペトロ 1：4、コロサイ 3：24、黙示録 20：9、21：3 を読んでください。これらの聖句は、ヨシュアの予型が最終的に成就することについて、どんなことを教えていますか。

ヨシュアの予型が最終的に完全に成就するのは、イエス・キリストの再臨においてです（黙示的／終末論的側面）。

ヨシュアの生涯は神のご品性を非常に多く反映しており、その生涯のいくつかの側面は、メシアの活動と人格を予表する預言的な性格を帯びていました。

今日の私たちにとって、メシアはすでに来られた存在です。イエスの働きは予表される必要はありませんが、私たちにはイエスのご品性を反映するという特権を持っています。それは、キリストが弟子たちと分かち合いたいと願われた栄光（ヨハ17：22）であり、キリストのご品性を熟考することによって私たちのものとなりうる栄光です（Ⅱコリ3：18）。イエスを眺めれば眺めるほど、私たちはイエスのご品性のすばらしさを反映するようになります。このことは、私たちがキリストと共に日々歩むことによってもたらされるべきものの基本です。だからこそ、毎日、御言葉に触れる時間がとても重要なのであり、だからこそ、イエスの人生、ご品性、教えについて、私たちはじっくり考える時間を持つべきなのです。見ることによって、確かに私たちは変えられます。

金曜日　12月5日　さらなる研究

「キリストの務めは、彼の時代の人々に理解されなかった。……。伝説や言い伝え、人間の作った戒めなどは、神が人に伝えようと意図された教訓を人々から隠した。それらは、真の宗教の理解と実行を妨げるものになった。そして、実在者なる神がキリストとなって来られたとき、人々は、彼こそすべての予型の成就であり、すべての影の実体であることを認めなかった。彼らは、対型を拒んで古くからの予型や無益な儀式を固守した。神のみ子が来ておられたのに、彼らは、しるしを求めてやまなかった。『悔い改めよ、天国は近づいた』というメッセージに対して、彼らが求めたものは奇跡であった……。救い主の代わりに奇跡を求めた彼らには、キリストの福音は、つまずきの石であった。彼らは、メシアが偉大な業を成し遂げてご自分がメシアであることを証拠だて、地上の国々を打ち破ってメシアの王国を建設するものと期待した。その期待に、キリストは種まきのたとえをもってお答えになった。神の国が発展していくのは、武力や暴力の干渉によってではなくて、人の心に新しい原則を植えつけることによってである」(『希望への光』1197ページ、『キリストの実物教訓』第2章)。

「教会には、従順という神の単純な条件で永遠の命を受け入れる準備ができている、忠実なカレブやヨシュアが必要である。私たちの教会は、働き手を求めて苦しんでいる。世界が私たちの伝道地である。宣教師が求められているのは、真理の光を見たことのない東方の異教徒よりも、確実に偶像礼拝に縛られている都市や村々においてである。真の宣教師精神は、宣教を崇高な職業とする教会からなくなってしまった。彼らの心はもはや、魂に対する愛と、その魂をキリストの群れに導きたいという願いで燃えていない。私たちは熱心な働き手を求めている。あらゆるところから上がる、『来て、わたしたちを助けてください』という叫び声に応えてくれる人は、1人もいないのだろうか」(『教会への証』第4巻156ページ、英文)。

話し合いのための質問

❶ **聖書の予型論は、あなたのためのイエス・キリストの働きをよりよく理解するうえで、いかに役立ちますか。**

❷ **私たちの霊的戦いは、カナン征服とどんな点で似ていますか。また、どんな点で異なりますか。**

❸ **ヨシュアの予型の最終的な成就について、熟考してください。痛み、苦しみ、死のない世界の光景は、どのような真の希望を与えてくれますか。**

❹ **ヨシュアは、キリストの働きを予表するほどに、神のご品性を反映していました。イエスによって、あなたの内に彼のご品性をより完全に反映するためには、どんな実際的方法がありますか。**